

研究・イノベーション学会第36回年次学術大会／オンラインセッション＊挑戦する日本の学術誌

クラウドファンディングを利用した 学術誌の創刊と運営

学術雑誌『メディウム』を例に

梅田 拓也

(同志社女子大学 学芸学部メディア創造学科 助教)

2021/10/29

〈第1部〉

学術雑誌『メディウム』の取り組みについて

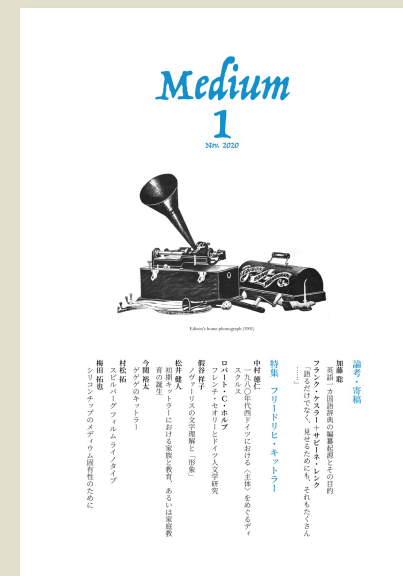
1. 学術雑誌『メディウム』について
2. クラウドファンディングによる学術誌運営

1. 学術雑誌『メディウム』について

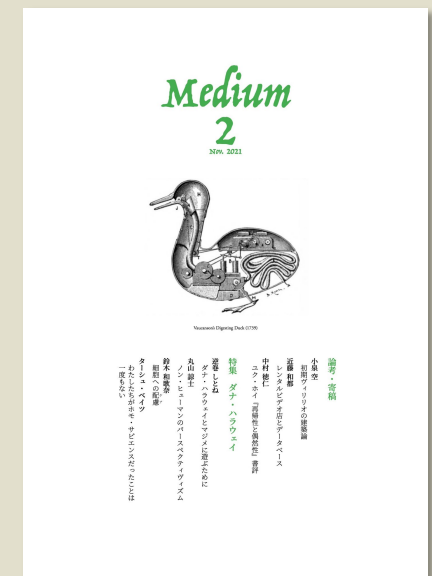
1.1. 学術雑誌『メディウム』の創刊主旨

人文学分野のメディア研究という(ニッチ)領域の 議論のためのプラットフォームの創出

- ・ 2020年創刊。
- ・ 情報社会の進展に伴って、人文学（哲学、芸術、文学、歴史等の研究）においても「メディア」をめぐる議論が活発に。
- ・ 日本語圏の「メディア」の研究は、社会科学の研究者・学会が中心となって展開
⇒人文学を軸足において「メディア」について論じた論文投稿の場がない



第1号



第2号

1. 学術雑誌『メディウム』について

1. 2. 学術雑誌『メディウム』の運営体制

研究機関・学会から独立した運営体制： フラットな議論の場を目指す

運営	投稿・査読	宣伝・販売	資金
 運営：2名 創刊メンバーが編集、校閲、組版(LaTeX)。特集にあわせゲストエディター	 投稿：14(9)+19(7)件 査読：8+13名 SNS等を中心として投稿者の募集。知人の研究者を中心に査読依頼	 Twitterフォロワー: 830 研究会：3回 研究会・HP・SNSを介した宣伝活動。Boothを介した販売	 CF: 690,000円 印刷費用が必要。クラウドファンディング+紙版・電子版の売上。

2. クラウドファンディングによる学術誌運営

2. 1. 学術雑誌×クラウドファンディング

クラウドファンディングのメリット： 運営に必要な資金調達＋研究のニーズ喚起

- ・クラウドファンディング：不特定多数の協力者から資金提供を募ること
- ・学術雑誌がCFを使うメリット：資金調達だけでなく、雑誌の投稿者・読者を確保するための宣伝活動にも繋がっている
⇒大学紀要やニッチ領域を主題にした雑誌など、規模が小さいほどメリット
- ・CFのプラットフォームは多数あるが、学術研究に特化したacademist社を利用



『メディウム』のacademistの募集ページ
(<https://academist-cf.com/projects/172?lang=ja>)

2. クラウドファンディングによる学術誌運営

2. 2. クラウドファンディングのプロセス

始めるのに必要なのは 明確なコンセプト、リターン、宣伝の手段

①企画（1~2ヶ月程度）

- ・コンセプトの策定：
資金提供してくれる人が
興味を持ちやすいように
- ・リターンの準備：
完成した雑誌、謝辞の掲載、
完成研究会への参加、講演
会への出講、グッズなど

②実施（1~2ヶ月程度）

- ・CF企業のHP内にプロジェ
クトページ設置
- ・SNSや学会&研究会ML
などでの宣伝
- ・無料研究会や読書会の実施
→CFへの誘導。

③リターン送付（1ヶ月程度）

- ・リターンの送付、研究会の
実施など
- ・実作業はacademist社も
請け負ってくれる

※全てのプロセスでacademist社からサポート

※達成額の20%が手数料となる